

1. 本「公営企業債券発行概要書 証券情報」(以下「本証券情報概要書」といいます。))において記載する 30 年第 6 回公営企業債券額面総額 200 億円(以下「本債券」といいます。))は、公営企業金融公庫法(昭和 32 年 4 月 27 日法律第 83 号。以下「公営公庫法」といいます。))第 23 条第 1 項に基づき、総務大臣及び財務大臣の認可を受けて、公営企業金融公庫(以下「公庫」といいます。))が発行する債券です。
2. 本債券は、政府保証の付されていない公募債券(財投機関債)です。
3. 本債券の発行者である公庫の詳細について記載し、本証券情報概要書と同時に投資家に交付された別冊「公営企業債券発行概要書 発行者情報 平成 15 年度決算」(以下「発行者情報概要書」といいます。))は、本証券情報概要書と一体をなします。発行者情報概要書には、公庫の経理の状況その他事業の内容に関する重要な事項及びその他の事項を平成 16 年 7 月 31 日時点以前の情報に基づき記載しています。本債券への投資判断にあたっては、発行者情報概要書も併せてご覧ください。
4. 本債券については、証券取引法(昭和 23 年 4 月 13 日法律第 25 号。以下「証券取引法」といいます。))第 3 条により同法第 2 章の規定が適用されず、したがって、その募集について同法第 4 条第 1 項の規定による届出は行われておらず、本債券、本証券情報概要書及び発行者情報概要書については、証券取引法第 2 章の規定は適用されません。よって、本証券情報概要書及び発行者情報概要書は、証券取引法に基づく法定開示書類ではありません。
5. 発行者情報概要書記載の公庫の財務諸表は、公営公庫法、公庫の予算及び決算に関する法律(昭和 26 年 3 月 31 日法律第 99 号)、関連政省令、並びに特殊法人等会計処理基準(昭和 62 年 10 月 2 日財政制度審議会公企業会計小委員会報告)に依拠して作成したものです。なお、公庫の予算及び決算に関する法律ではいわゆる中間決算制度が採用されていないため、公庫では中間財務諸表を作成していません。  
また、発行者情報概要書には、上記財務諸表に加え、行政コスト計算財務書類を参考情報として記載しています。行政コスト計算財務書類に含まれる民間企業仮定貸借対照表及び民間企業仮定損益計算書等の財務諸表は、特殊法人等に係る行政コスト計算書作成指針(平成 13 年 6 月 19 日財政制度等審議会財政制度分科会法制・公企業会計部会公企業会計小委員会報告)に従い、民間企業の財務報告において拠るべき基準とされている企業会計原則に準拠した会計処理に則って作成したものです。  
上記の財務諸表は、いずれも証券取引法第 193 条の 2 に規定される監査証明は受けていません。

#### 本証券情報概要書に関する連絡場所

東京都千代田区日比谷公園 1 番 3 号  
電話番号 東京 03-3539-2697  
公営企業金融公庫 経理部 資金課

## 目 次

第1	募集要項 .....	2
	1. 新規発行債券 .....	2
	2. 債券の引受け及び債券発行事務の委託 .....	6
	3. 新規発行による手取金の使途 .....	6
第2	発行者情報概要書の補完情報 .....	7
	1. 発行者情報概要書の補完情報 .....	7

# 第 1 募集要項

## 1. 新規発行債券

銘 柄	30年第6回公営企業債券	券 面 総 額	金 20,000,000,000 円
記名・無記名の別	無 記 名 式	発行価額の総額	金 20,000,000,000 円
各債券の金額	1,000万円及び1億円の2種	申 込 期 間	平成17年4月28日
発 行 価 額	額面100円につき 金99円89銭	申 込 証 拠 金	額面100円につき金99円89銭とし、払込期日に払込金に振替充当する。申込証拠金には、利息をつけない。
利 率	年2.45%	払 込 期 日	平成17年5月17日
利 払 日	毎年3月24日及び9月24日	申 込 取 扱 場 所	別項引受証券会社の本店及び国内各支店
償 還 期 限	平成47年3月23日(金)	登 録 機 関	株式会社東京三菱銀行 東京都千代田区丸の内二丁目7番1号
募 集 の 方 法	一般募集		
利息支払の方法	<p>1. 利息支払の方法及び期限</p> <p>(1) 本債券の利息は、発行日の翌日から本債券を償還すべき日(以下「償還期日」という。)までこれをつけ、平成17年9月24日を第1回の支払期日としてその日までの分を支払い、その後、毎年3月24日及び9月24日の2回に、各その日までの前半箇年分を支払う。</p> <p>(2) 利息を支払うべき日が銀行休業日に当たるときは、その支払は前日に繰り上げる。</p> <p>(3) 発行日の翌日から平成17年9月24日までの期間につき利息を計算するとき及び償還の場合に半箇年に満たない利息を支払うときは、半箇年の日割をもって計算する。</p> <p>(4) 償還期日後は、利息をつけない。ただし、償還期日に本債券の償還を怠った場合には、償還期日の翌日から実際に当該償還が行われた日までの日数につき、別記「利率」欄に記載の利率により計算される金額(以下「経過利息」という。)を支払う。経過利息は、半箇年の日割をもって計算する。</p> <p>2. 利息の支払場所</p> <p>別記「摘要」欄「11. 元利金支払場所」記載のとおり。</p>		

償還の方法	<p>1. 償還金額 額面 100 円につき金 100 円</p> <p>2. 償還の方法及び期限 (1) 本債券の元金は、平成 47 年 3 月 23 日にその全額を償還する。 (2) 償還期日が銀行休業日に当たるときは、その支払は前日に繰り上げる。 (3) 本債券の買入消却は、いつでもすることができる。</p> <p>3. 償還元金の支払場所 別記「摘要」欄「11. 元利金支払場所」記載のとおり。</p>
担保	本債券の債権者(以下「本債権者」という。)は、公営公庫法の定めるところにより、公庫の財産について、他の債権者に先立って自己の債権の弁済を受ける権利を有する。
財務上の特約	担保提供制限 該当事項なし(本債券は一般担保付であり、財務上の特約は付されていない。)
	その他の条項 該当条項なし
取得格付	<p>1. 取得格付           A A A</p> <p>2. 指定格付機関名   株式会社格付投資情報センター</p> <p>3. 格付取得日       平成 17 年 4 月 28 日</p>
取得格付	<p>1. 取得格付           A A -</p> <p>2. 指定格付機関名   スタンダード・アンド・プアーズ・レーティングス・サービス</p> <p>3. 格付取得日       平成 17 年 4 月 28 日</p>
摘要	<p>1. 募集の受託会社</p> <p>(1) 公営公庫法第 25 条第 1 項に基づく本債券の募集の受託会社(以下「受託会社」という。)は株式会社東京三菱銀行とする。</p> <p>(2) 受託会社は、本債権者のために弁済を受け、又は本債券に基づく債権の実現を保全するために必要な一切の裁判上又は裁判外の行為をなす権限を有する。</p> <p>(3) 受託会社は、本債券の発行要項各項のほか、法令及び公庫と受託会社との間の平成 17 年 4 月 28 日付募集委託契約証書(以下「委託契約」という。)に定める権限及び義務を有する。</p> <p>2. 期限の利益の喪失事由</p> <p>本債券の期限の利益喪失事由は、次の各号に掲げるものとする。</p> <p>(1) 公庫が別記「利息支払の方法」欄第 1 項又は別記「償還の方法」欄第 2 項の規定に違背し、5 営業日以内に履行又は治癒されないとき。</p> <p>(2) 公庫が発行する本債券以外の債券若しくはその他の借入金債務について期限の利益を喪失し、又は期限が到来しても 5 営業日以内にその弁済をすることができないとき、又は公庫以外の債券若しくはその他の借入金債務に対して公庫が行った保証の債務について履行義務が発生したにもかかわらず、5 営業日以内にその履行をすることができないとき。ただし、当該債務の合計額(邦貨換算後)が 50 億</p>

<p>摘要</p>	<p>円を超えない場合は、この限りではない。</p> <p>(3) 法令により、本債券の償還期日前に公庫が解散することが決定され、かつ、本債券の債務が継承されないことが明らかとなったとき。</p> <p>(4) 公庫に倒産処理手続きに係る法律が適用され、当該法律に基づき、公庫に対して倒産処理手続き又はそれに類した手続きが開始されたとき。</p> <p>3. 債券の喪失</p> <p>(1) 本債券の債券を喪失した者が、遅滞なく、その種類、記番号、喪失の事由等を公庫に届け出て、かつ、公示催告の手続きをし、その無効宣言があった後、除権決定の確定謄本を添えて請求した場合は、公庫は、代わり債券をその者に交付することができる。</p> <p>(2) 本債券の利札を喪失した場合は、代わり利札は交付しない。ただし、前号に準じて公示催告をし、その無効が確定した場合は、支払期日が到来したものに対しては、その利息を支払う。</p> <p>(3) 本債券の債券を毀損又は汚染した場合は、その債券を添えて、代わり債券の交付を請求することができる。ただし、真偽の鑑別が困難なときは、喪失の例による。</p> <p>4. 代わり債券の交付の費用</p> <p>公庫は、代わり債券を交付する場合は、これに要した実費を徴収する。本債券の登録を抹消し、債券の交付の請求があった場合もまた同様である。</p> <p>5. 欠缺利札の取扱</p> <p>本債券を償還する場合において、欠けている支払期日未到来の利札があるときは、その利札面金額に相当する金額を償還額から控除する。ただし、その利札の所持人がこれと引き換えに控除金額の支払を請求したときは、公庫は、これに応じなければならない。</p> <p>6. 公告の方法</p> <p>公庫又は受託会社は、本債券に関し、本債権者に通知すべき事項がある場合は、法令又は委託契約に別段の定めがある場合を除き、官報並びに東京都及び大阪府で発行される日刊新聞紙に掲載することにより公告する。ただし、受託会社が、本債権者のために必要でないと認め、その旨を公庫に通知した場合は、官報又は新聞紙への掲載を省略することができる。</p> <p>7. 債券原簿の公示</p> <p>公庫は、その本店に本債券の債券原簿を据え置き、その営業時間中、一般の閲覧に供する。</p> <p>8. 本債券の発行要項及び委託契約の公示方法</p> <p>本債券の発行要項及び委託契約の謄本は公庫及び受託会社の各本店で営業時間中一般の閲覧に供する。</p> <p>9. 本債券の発行要項の変更</p> <p>(1) 公庫は、本債権者に不利益を与えない事項については、受託会社と協議のうえ、</p>
-----------	---

<p>摘要</p>	<p>本債券の発行要項を変更することができる。</p> <p>(2) 前号に基づき本債券の発行要項が変更されたときは、公庫はその内容を公告する。ただし、公庫と受託会社が協議のうえ不要と認めた場合は、この限りではない。</p> <p>10. 本債券の債権者集会</p> <p>(1) 本債券の債権者集会(以下「債権者集会」という。)は、公庫又は受託会社がこれを招集するものとし、会日より少なくとも3週間前に債権者集会を開く旨及び会議の目的たる事項を公告する。</p> <p>(2) 債権者集会は、東京都において行う。</p> <p>(3) 本債券の総額の10分の1以上にあたる本債権者は、その保有する本債券の債券(又は登録内容証明書)を添えて、会議の目的たる事項及び招集の理由を記載した書面を受託会社に提出し、債権者集会の招集を請求することができる。</p> <p>11. 元利金支払場所</p> <p>株式会社東京三菱銀行本店及び国内各支店 メリルリンチ日本証券株式会社本店</p>
-----------	---

## 2. 債券の引受け及び債券発行事務の委託

債券の引受け	引受人の氏名または名称	住 所	引受金額	引受けの条件
	メリルリンチ日本証券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目4番1号	百万円 20,000	1. 引受人は本債券の全額につき引受ならびに募集の取扱を行い、応募額がその全額に達しない場合はその残額を引受ける。 2. 引受手数料は、額面100円につき金47.5銭とする。
	計		20,000	
債券発行事務の委託	受託会社の名称	住 所		
	株式会社東京三菱銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号		

## 3. 新規発行による手取金の使途

### (1) 新規発行による手取金の額

払 込 金 額 の 総 額	発 行 諸 費 用 の 概 算 額	差 引 手 取 概 算 額
19,978百万円	105百万円	19,873百万円

### (2) 手取金の使途

上記の差引手取概算額19,873百万円は、公営公庫法第19条及び同法附則第10項に定める業務を行うために必要な資金に充当されます。

## 第2 発行者情報概要書の補完情報

### 1. 発行者情報概要書の補完情報

発行者情報概要書に記載された内容について、発行者情報概要書の作成日以降現在（平成17年4月28日）までの間において生じた公表すべき変更その他の事由は、次のとおりです。

#### (イ) 公庫総裁の異動について

公庫総裁について下記のとおり異動がありました。

平成16年9月24日 持永 堯民 退任

平成16年9月24日 渡邊 雄司 就任

なお、新総裁の略歴については以下のとおりです。

役職名	氏名	任期	主要経歴
総裁	渡邊 雄司 (昭和19年1月3日生)	平成16年9月24日就任 ～平成17年5月31日	昭和42年4月 株式会社日本興業銀行入行 平成14年4月 株式会社みずほホールディングス 取締役副社長 平成15年1月 株式会社みずほフィナンシャルグループ 取締役副社長 平成15年10月 興和不動産株式会社代表取締役社長 平成16年9月 現職就任

#### (ロ) 平成17年度予算について

平成17年度予算については、第162回国会で平成17年3月23日に議決され成立しました。

この平成17年度予算に基づく、当公庫関連事項の概要は以下のとおりです。

#### I. 貸付計画額

平成17年度地方債計画等を踏まえ、貸付計画額を1兆6,064億円（前年度1兆7,652億円）とする。

(単位：億円、%)

区分		平成17年度 A	平成16年度 B	増減率 (A-B)/B
一 般 貸 付	一般会計債	4,036	4,408	△ 8.4
	公営企業債	9,918	11,994	△ 17.3
	公営企業借換債	2,000	1,100	81.8
	小計	15,954	17,502	△ 8.8
	公社貸付	110	150	△ 26.7
合計		16,064	17,652	△ 9.0

- (注) 1. 平成17年度地方債計画（公庫資金）のうち当年度貸付見込額及び平成16年度地方債計画のうち過年度貸付見込額を合算した額である。なお、農林漁業金融公庫からの受託貸付は含まない。
2. 平成17年度地方債計画額（公庫資金）は、1兆5,330億円（前年度1兆6,140億円）であり、前年度に比し5.0%の減となっている。



## II. 公営企業借換債の拡充

公営企業借換債について資本費負担の著しく高い一定の公営企業に対する借換債（従来分）の利率要件を緩和するとともに、平成 17 年度の臨時特例分として、別途高金利の一定の公営企業債について借換債を措置することとし、公営企業借換債の計画額を、2,000 億円（前年度 1,100 億円）に大幅増額する。

(1) 従来分（対象拡大） 1,000 億円

（対象団体）

資本費負担が著しく高い一定の公営企業

\*対象事業

上水道事業、工業用水道事業、都市高速鉄道事業、下水道事業

（対象債）

利率 6.0%以上（16 年度 7.0%以上）の公営企業債

(2) 臨時特例分（新規） 1,000 億円

上記従来分の借換えのほか、平成 17 年度の臨時特例措置として、利率 7.3%以上等の一定の公営企業債について、借換枠を別途 1,000 億円確保。

## III. 臨時特別利率の貸付枠の確保

公営企業による社会資本整備の推進に資するため、貸付枠を 3,900 億円（前年度 4,300 億円）とする。

## IV. 公営企業債券の発行計画

公営企業債券総額を 1 兆 9,660 億円（前年度 2 兆 2,700 億円）とする。

政府保証国内債については、新たに 15 年債を 400 億円発行する。

（単位：億円、%）

区 分	平成 17 年度 A	平成 16 年度 B	増 減 率 (A-B)/B
政府保証債	11,700	13,800	△ 15.2
国 内 債	10,400	12,500	△ 16.8
外 債	1,300	1,300	0.0
非政府保証債	7,960	8,900	△ 10.6
財投機関債	4,000	4,000	0.0
縁 故 債	3,960	4,900	△ 19.2
合 計	19,660	22,700	△ 13.4

## V. その他

公庫が金利上昇リスクに的確に対応しつつ、引き続き長期低利の良質な資金を安定的に供給していくことができるよう、債券借換損失引当金限度額（各年度末貸付金残高に対する割合）を 125/1000（現行 100/1000）に引き上げる。